

北海道 鹿部町

四季の移ろいに歩幅をあわせ、町の暮らしは続いています。



ACCESS

鹿部町への交通手段

- JR函館駅から函館本線 普通列車 鹿部駅下車【約50分】
- JR函館駅から直通バス【約90分】
- 函館市内から車【約60分】
- 函館空港から車【約50分】
- 新函館北斗駅から車【約30分】
- 大沼国定公園からバス【約25分】／車【約20分】
- 森から車（国道278号線）【約30分】
- 札幌から車【約4時間30分】



鹿部町ホームページ
<https://www.town.shikabe.lg.jp>

【2022年 鹿部町勢要覧】○発行／北海道鹿部町 ○発行日／令和4年4月 ○編集／鹿部町企画振興課 ○制作／有限会社 岡部広告室



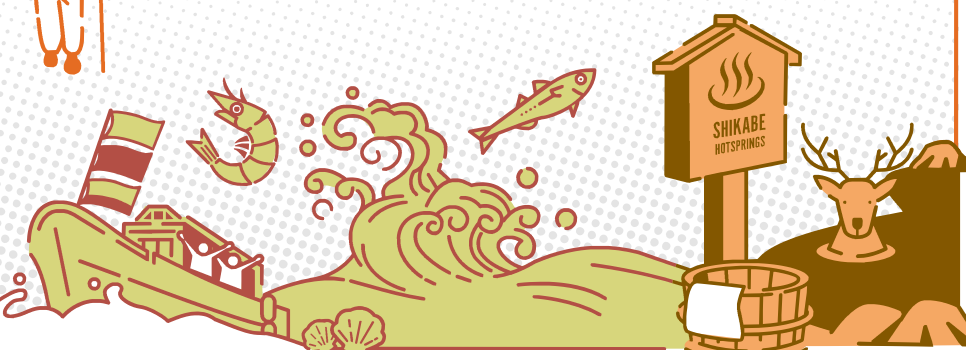
SHIKABE
 Towns Handbook 2022 version

暮らしの
 情報満載！

鹿部町



2022年 町勢要覧
 HOKKAIDO SHIKABE TOWN





明日へつなげたい。
豊潤な自然のめぐみと
ぬくもりある人の営み。

SHIKABE

Towns Handbook 2022 version

■町名の由来

アイヌ語の「シケルベ」が町名の由来。「シケルベ」とは「キハダ（別名シロ口）のある所」の意で、イナウ（神祀る木）・薬用・染料等に使う貴重な木であるキハダが多い事からそう呼ばれ、後に転訛して「鹿部」となりました。

■位置と面積

鹿部町は北緯42度02分東経140度49分に位置し、噴火湾を臨み、北海道駒ヶ岳の麓に広がる漁業の町です。東西16.5km。南北19km。面積110.63平方km。駒ヶ岳山頂を境に七飯町・森町・横津岳山頂を境に函館市・七飯町と接します。

■町章の由来

外周の4つの「カ」は「4カ」、すなわち鹿部の「鹿」を表し、中心は昆布と鹿の角と温泉をシンボライズしたもので、町民の和と町の発展の願いが込められています。



観光キャラクター



カールス君



いずみちゃん



たらずきんちゃん



町の木 ナナカマド



町の花 ツツジ

Contents 鹿部町勢要覧・目次

第1章

町のなりわい、《鹿部の産業》

漁業	5
温泉	7
食と観光	9

第2章

ここがふるさと《町の暮らし》

行政の拠点・庁舎	13
防災	15
子育て	17
福祉	19
町政	21

Greeting 発刊にあたって

鹿部町は、北海道の南端渡島半島の東部に位置し、秀麗北海道駒ヶ岳を背に洋々たる太平洋に面した噴火湾の出入り口にある、気候温暖で全国でも数少ない間歇泉のある温泉に恵まれた土地です。

元和元年（1615年）に南部大淵から司馬宇兵衛氏が優良昆布採取のため移住したのが開町の基であり、その後、明治12年（1879年）戸長役場が設置され、名実共に自治体としての歴史が始まり、昭和58年12月1日には、町制を施行しました。

開村以来、噴火湾という豊かな漁場に恵まれ、漁業と新鮮な魚介類を原料とした水産加工業を主な産業として発展を遂げて参りました。

この、水産業をとりまく昨今の状況は、大変厳しい状況が続いておりますが、「つくり、まもり、育てる漁業」への挑戦や生産者から消費者までが顔の見える経済やエネルギーが近隣地域で巡る「地域循環型社会」や地域で支え合う「地域共生型社会」の構築を目指し、道の駅を拠点とした、食と観光、また、ふるさと納税の推進などによる持続可能なまちづくりを進めております。

また、世界情勢が混沌する中、地方自治体の在り方も大きく変化して参りました。デジタル化やカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現など、次の時代に何を残し、何を残さないのか、私たちの責任において未来を築いていかなければなりません。

「進むべき道は町民皆さま方の中にある」を基本姿勢として、各世代の出身を創出し、対話による小さな想いや気づきを大切に共に考え、共に行動し「心豊かな笑顔あふれ光り輝く、日本一魅力ある、日本一行ってみたい住んでみたい漁師町」を目指して参ります。

本書は、こうした町勢の現状と今後の姿勢をご紹介しますので、当町を知っていただくうえで、ご利用いただければ幸いです。

鹿部町長 盛田 昌彦
もり た あき ひこ



第1章

Chapter 1

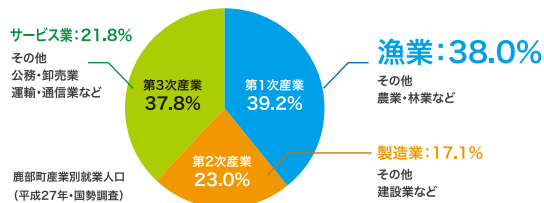
町のなりわい

《鹿部の産業》地域資源を生かした町づくり

鹿部町には古来より海・山・温泉など魅力的な資源が豊富にあります。町政発足以来、それらを活かす産業として発展させる取組を継続的に行ってきました。水産業を基軸とした経済活性化による雇用の創出。そして町の魅力を広く発信するための観光振興など、町民が誇りと生きがいを持って働き、より豊かに暮らせる町づくりを目指しています。



鹿部町民はどんな仕事に就いているの？



水産業を中心とした町の経済活動

鹿部町といえば海の町、すなわち水産業。人口/3,760人
生産から加工まで、かつては住民の半数以上が従事していましたが、家族構成や価値観が多様化した現在は商工業や観光業など、町民の職業は多岐に渡ります。
令和2年国勢調査より

●男性: 1,779人
●女性: 1,981人
●世帯: 1,619世帯

産業連携

町の資源を活かすこと

地元ならではの食文化に目を向け、町の生産力と就業機会を向上させる取組です。漁業・水産加工業・農林業・畜産業など鹿部の食に関わる産業が連携し、商品開発や付加価値向上など新たな取組を進めています。

- 鹿部町A級グルメ
- 鹿部牛のブランド促進
- 山菜・果樹等の栽培

就業支援

町で働くこと

地域産業の担い手を確保するため人材育成から就業支援まで対応しています。事業継承の円滑化や移住者への情報提供など、町内で働く人を応援するための各種機関があります。

- 道立漁業研修所
- 地域就労サポートセンター
- 広域連携事業

魅力発信

町を知ってもらうこと

各種イベントなどをとおして鹿部町の魅力を伝え、地域産業への理解を深めていただくための取組を行っています。

- しかべ海と温泉のまつり
- ちよっと暮らし事業
- YouTube「しかべチャンネル」
- ふるさと学習

土地のめぐみに囲まれて。

鹿部町が守り、育み、つなぐもの

漁業

P5-6

海とともに暮らす町

町の経済にとって水産業はもっとも重要な柱となっています。町では港や加工場の整備から後継者の育成まで、長年、地元の産業基盤を支えてきた伝統を未来へつなぐための取組を行っています。



温泉

P7-8

すぐそばに温もり

鹿部町には30箇所以上の泉源があります。世界的にも珍しい間歇泉や足湯は観光名所となり、古くから営まれている温泉旅館も人気です。鹿部の温泉は公共施設や町内のインフラにも利用されており、住みよい町づくりに大いに貢献しています。



身近な存在！

食と観光

P9-10

世界に誇る食がある

鹿部といえば「たらこ」を代表格に、新鮮な魚介類が有名ですが、海の幸のほかにも、山菜などの山の幸や畜産業にも力を入れています。町では豊富な自然の恵みを活かした鹿部ならではの食文化を多角的に発信する取組や商品開発を支援しています。



A級グルメ！



町外からも産業振興の協力を募っています

■地域おこし協力隊

マンパワーで地域力の維持・強化

地方都市における人口減少・高齢化は鹿部町も例外ではありません。町では国の地域おこし協力隊制度を使い、町外から人材を積極的に招き、ともに暮らしながら地域産業の応援やPR活動、住民の生活支援など、様々な活動に参加していただいています。

■ふるさと納税

離れていても、応援してくれる人がある

「しかべ」に住んでいないけれど、ふるさとに貢献したいという方々がたくさんいます。ふるさと納税は地域を元気にしたいという想いを寄附金という形で応援していただく制度です。鹿部町の魅力を堪能していただくため、返礼品にも趣向を凝らしています。

漁業

海とともに暮らす町

町の財政を支え続ける基幹産業



POINT 安全で機能性の高い3つの漁港

鹿部の漁港は3つ。衛生管理型漁港である鹿部漁港を中心に機能しており、本別漁港・出来洞漁港（本別漁港分港）の地区別に漁港が存在し、各漁港で荷揚げできる環境が整っています。主な漁獲物として、スケトウダラ・ホタテ・昆布があり、盛漁期には各漁港が活気に溢れています。



① 出来洞漁港



② 本別漁港



③ 鹿部漁港

鹿部漁港は水揚げから出荷までを行う中核の漁港として機能しています。使用水は港外から取水し、紫外線殺菌を行い、荷揚げや市場で使用しています。その他にも出荷の際に使用する氷の更新など安全面や環境保全にも配慮しています。

荷捌場（市場）



流通拠点漁港として機能している鹿部漁港は、荷捌施設である市場を有し、衛生管理を高めるために荷捌から出荷までスピーディーに処理しています。

養殖施設



おもにナマコの間育苗・昆布・ホタテ・ホヤの養殖を行なっています。海産物の安定生産・衛生的で安全を担保する養殖技術があります。

■海の恵みに支えられて

ひとことで漁業といっても単に船に乗って魚を水揚げするだけではありません。漁獲物を管理する荷捌場（市場）や育てるための養殖施設など、さまざまな仕事があります。町の水産衛生管理委員会では食卓に届くまでの一連の行程を推進し、新鮮な漁獲物を安心安全に届ける仕組みづくりを行っています。

■鹿部で獲れるおもな魚介類



スケトウダラ

時期：10月～3月

スケトウダラは昭和59年から回遊量が著しく増加し、以後隔年で豊漁を続け、現在も近海的主要な魚種として漁獲しています。



昆布

時期：7月～9月

鹿部の昆布は、江戸時代から松前藩の重要な交易品でもありました。昭和40年代後半からは養殖が始まり、まちの主要漁業のひとつとなっています。



ホタテ

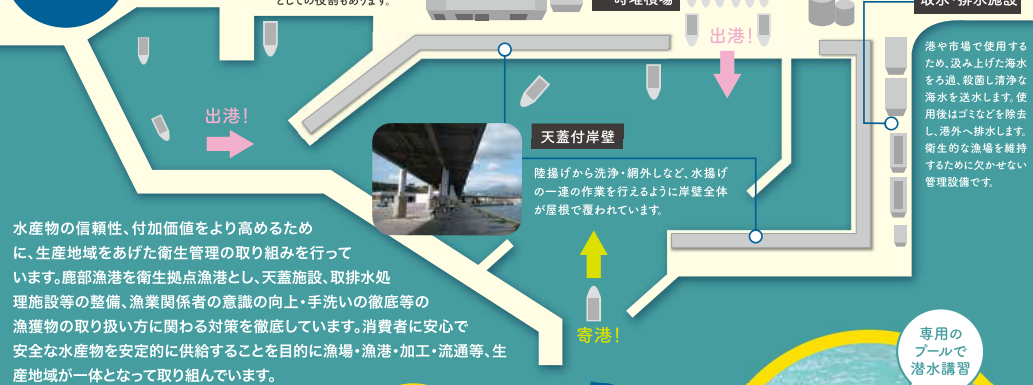
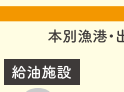
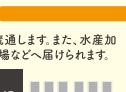
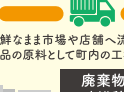
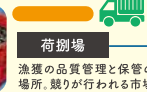
時期：2月～4月

昭和50年代から取り組み始めたホタテの養殖は、稚貝を海中に吊るす重下方式という方法で行われ、冬に出荷されます。

衛生管理 安心安全な海の幸を食卓へ。

鹿部漁港

《衛生管理型漁港》



水産物の信頼性、付加価値をより高めるために、生産地域をあげた衛生管理の取り組みを行っています。鹿部漁港を衛生拠点漁港とし、天蓋施設、取排水処理施設等の整備、漁業関係者の意識の向上・手洗いの徹底等の漁獲物の取り扱い方に関わる対策を徹底しています。消費者に安心で安全な水産物を安定的に供給することを目的に漁場・漁港・加工・流通等、生産地域が一体となって取り組んでいます。

人材育成

北海道立漁業研修所

漁業に必要な技能や知識が身につく、総合的な研修施設

北海道で唯一、漁業の担い手を育成するための研修施設です。新規漁業就労者や漁業後継者の指導にあたっています。全寮制の総合研修は全道各地から研修にやってきます。漁師には欠かせないロープの扱いや船の操作、魚の捌き方など実践的なことを学び、資格取得のための講習を行います。

■総合研修（新規漁業就業者）《18歳以上・全寮制》

【講義】栽培漁業・漁家経営・資源管理・水産生物・海洋気象・漁業制度・漁船機器 など
【実習】ロープワーク・漁労作業・漁具製作・水産加工・潜水・操船 など

■総合研修で取得可能な資格

一級小型船舶操縦士	第二級海上特殊無線技士	丙種・乙4種類危険物取扱者	潜水士
フォークリフト	玉掛け	小型移動式クレーン	食品衛生責任者

■その他の研修

○漁業者入門研修（リターン・1ターン者対象） ○つくり育てる漁業技術研修（漁村セミナーなど） ○漁業就業促進研修（資格取得研修）



北海道立漁業研修所
〒041-1404 北海道茅部郡鹿部町字本別540番地198
TEL(01372)7-5111 FAX (01372)7-3042



お話を聞かせてください！

ネットワークの中に新しい人がどんどん入ってきて欲しい

鹿部漁業協同組合 青年部長 能戸仁士 さん

祖父の代から数えて私で3代目。時代によって漁の対象も変わり、現在はホタテ、スケトウダラ、エビが主漁獲物です。漁業は自然が相手ですから、好調な時も不調な時もありません。さらに、鹿部町の港だけを見ていても発展はありません。そこで、鹿部漁業協同組合青年部では、勉強のためにホヤを扱う漁場を見学し、現在はホヤにもチャレンジしているほか、漁師仲間と様々な漁場を見て回って意見交換を行うなど、漁師同士のネットワークもしっかり築かれています。この海には全国に誇れる資源があり、それを自分たちが届けられるやりがいを持って、みんなで協力して鹿部町の漁業を盛り上げていきたいですね。



温泉

すぐそばに温もり

300年の歴史は町民の暮らしとともに

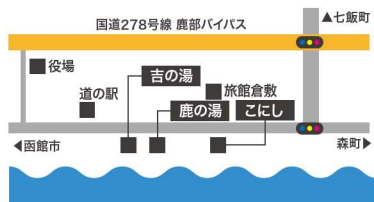
■温泉の歴史

鹿部温泉は、寛文元年(1661年)に津軽(現・青森)から昆布漁にきていた伊藤源五郎が、温泉で傷を癒す一頭の鹿に遭遇し、そこに温泉場を設置したのが起源と言われています。鹿島明神信仰者の源五郎はその場所に温泉場を設置、やがて鹿部の湯は多くの人々に知られることとなりました。



■地域の社交場として

観光客向けの宿泊施設を有する温泉旅館も、日帰り入浴のサービスを行っており、誰でも気軽に利用できるのが鹿部の温泉の特徴。町民にとって、温泉は古くから「普段使い」の銭湯として、とても身近な存在です。町のメインストリートに点在する馴染みの浴場で漁師がその日の漁獲を語り合うなど、貴重な情報交換の場でもあります。



■町の温泉利用

鹿部町では温泉の熱源をエネルギーとして有効活用しています。温泉を利用した温水プール、ロードヒーティングなど生活に密着した心強い存在です。



■ロードヒーティング



■コミュニティ・プール



■いこいの湯 床暖房

あったまりにおいで。
いつでも町民の暮らしとともに

日帰りOK! 町内の温泉

町内には30か所以上もの泉源があります。湯によってそれぞれ泉質が異なるのが特徴です。



温泉旅館 吉の湯

弱塩泉でランドを含む同温泉は腰痛、肩こり、アトピー等に効果的。入浴後は肌がすべすべになり湯冷めしにくいと好評です。



温泉旅館 鹿の湯

大正7年創業、こんこんと湧き上がるかけ流しの温泉は肌に優しく、ほのかに磯の香りが漂う庭園風露天風呂も魅力的です。



温泉旅館 こにし

加水、加温の無い天然温泉100%かけ流しであり、日帰り温泉の他にも観光客や出張などの長期滞在者にも人気の温泉です。

道南を代表する温泉郷のシンボル

しかべ間歇泉公園

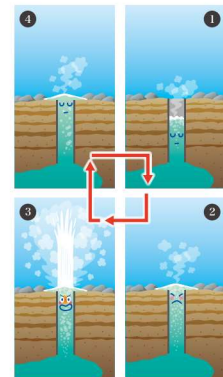
北海道遺産選定

地球の鼓動を感じる瞬間。空高く噴き上がる迫力の間歇泉!



間歇泉とは周期的に地面より噴き出す温泉のことです。鹿部の間歇泉は約10～15分間隔で15メートル以上もの高さまで噴き上がる日本でも大変珍しいものです。町は間歇泉を公園として整備し観光資源として有効活用しながらその保全とPRを行っています。公園は2016年オープン道の駅と併設しており、毎年多くの観光客が訪れます。間歇泉は活火山地帯のシンボルとして自然のパワーや不思議さを次世代に伝える役割も果たしています。

間歇泉の仕組み



- 1 間歇泉の温泉は地面より26m下から湧き出ているものです。113℃の温泉がパイプの中をゆっくりと上がっていき、パイプの深さが26mもあると2.6気圧の水圧がかかり沸騰し始めます。
- 2 100℃を超える温泉が次第に上昇してきて地表近くの水圧が低い場所までくると、沸騰し始めます。
- 3 沸騰で出来た気泡は、パイプの中の水圧を下げるので、より沸騰しやすくなり、温泉の湧き出す量が増えます。そして本格的な沸騰が激しく起こり、温泉が勢いよく、空高く噴き上げられます。
- 4 しばらく噴き上げると、噴き出しの勢いに温泉の湧き出す量が追いつかなくなるため、水位が下がり、温泉はパイプの外に噴き出せなくなります。このとき、温泉の温度も100℃以下に冷やされ、パイプと壁に溜まるので沸騰が終わり、そしてまた繰り返します。

高さは15m以上
(6階建てのビルくらいです)

温度は約100℃以上
(地下26mの深さから湧き上がります)

ナトリウム 塩化物泉
(無色透明で無臭、色も臭いもありません)

1回に500ℓ噴出
(ペットボトル(1.5リットル)334本分)

公園内には温泉を利用した癒しスポットやグルメも

足湯

間歇泉を鑑賞しながら、噴き出した温泉を利用した名物の足湯でゆったりとくつろげます。神経痛や冷え性などに効果があり、ドライブや散歩で疲れた足を癒してくれる至福の瞬間。



蒸し釜

100度以上ある源泉の蒸気を利用した「温泉蒸し処」では鹿部町で水揚げされた魚介類や近隣町で採れた野菜などをその場で調理してお楽しみいただけます。



お話を聞かせてください!

「町と温泉は切っても切れない関係なんです」

鹿部温泉観光協会 会長・温泉旅館 吉の湯 吉 英樹 さん

1640年に北海道駒ヶ岳の大噴火があり、その後、鹿部で温泉が発見されてから今まで、300年以上の歴史をきてきました。大正7年に鹿の湯さんが創業し、昭和4年の噴火後には鹿部町に映画館ができた。電車も通り、戦前はかなり賑わっていたそうです。昭和30年代あたりからは、商品を売り歩く行商の方がたくさん鹿部に宿泊していました。ピーク時には町内に温泉施設が7軒ほど、銭湯も4軒ほどあり、温泉は町民にとって身近な存在になったのです。鹿部町にとって温泉は、憩いの場という面も大きく、一つのコミュニティの場としての歴史もあり、温泉を掘って自宅に引いている人もいます。私にとっても温泉は、曾祖父さんから継いで守ってきたもの。これから若い人たちがつなげていきたいという思いを強く持っています。



食と観光

世界に誇る食がある

町民が愛する食文化を発信しよう



四季折々の美味しさ

水産王国・鹿部の魚介・味覚の旬

なるほど
info

甘エビ丼や汁物など期間限定のメニューは道の駅の浜のかあさん食堂などでも食べられます。

なるほど
info

隔年で豊富な傾向があるスケウダラの卵は町の名産・鹿部たらの原料となります。



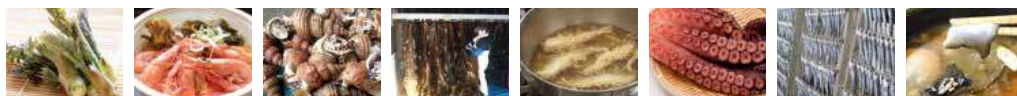
なまこ	ホッケ	甘エビ	昆布	ホッケ	スケウダラ	ハタハタ	なまこ
ホタテ	カレイ	つぶ貝	たこ	ほっき貝	にしん	ごっこ	ホタテ

春

夏

秋

冬



山の幸も豊富な鹿部町では、春にはタラの芽やわらび・ゼンマイなどが食卓に上がります。夏にかけて海産物の旬も多く、新鮮な刺身のほかに、味噌汁などの汁にも使われています。浜では昆布の収穫があり、各所で天日干しの光景が見られます。

夏の終わりと秋にかけてはチカやカレイなどを求めて漁港で釣りを楽しむ人も。大きな水ダコはこの時期が最盛期です。冬の寒風で旨みが増す棒鱈など干魚などの仕込みも行われます。個性的な姿をした「ごっこ（ホテイウオ）」の汁物も秋冬の風物詩です。

食の宝庫 A級グルメ

地産地消を背景とする鹿部町の多彩なA級グルメ。漁師町ならではの海の幸はもちろん、近隣の山で採れる山菜の活用も着々と進んでいます。また、畜産業による牛肉の販売も行われています。



北海道駒ケ岳の水と、広大な牧草地でのびのびと育ったブランド牛『鹿部牛』も注目されています！

「A級グルメ」とは、島根県島根市が取り組んでいた、地域の「食」を通じて地域の誇りを振り起こす構想です。鹿部町はほぼA級（永久）グルメのまち連合に自治体として参画しています。



新鮮な魚介類を市場へ 鹿部の食品加工

町内にはたらこ・昆布製品などの工場がたくさんあります

地元で獲れた食材を地元で製品化し、流通・販売までを行う「6次産業化システム」を構築しています。

噴火湾で獲れた美味しい魚介類を新鮮なうちに加工・調理し、迅速に消費者の元に届けるために、漁協を中心として、漁業・水産加工業・小売業が一体となって取り組んでいます。地域経済と雇用創出に貢献できるよう、町の特産品のさらなるブランド化を推進しています。

水揚げ



加工



製品化



出荷



うまいもの
お届け！

6次産業化とは、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組です。

訪れるひと、みんな鹿部の食のトリコになります。



お話を聴かせてください！

日本全国、さらに世界へと飛び出す鹿部のA級グルメ

株式会社シカベンチャー 道の駅しかべ間歇泉公園 副店長 田中 健太郎 さん

子どもの頃、タラコなどは毎日のように家の食卓にあり、様々な魚介類を食べていました。鹿部町で生まれ育ってリターンしてきた時は、水と魚介類の美味しさなど、当たり前が当たり前ではなかったことに気付かされました。シカベンチャーでは、道の駅しかべ間歇泉公園のウェブサイト上で鹿部の食に関する情報をほぼ毎日発信しています。また、実際に来店している感覚でおいしい物ができるウェブ来店という独自サービスも好評で、鹿部町の食の知名度が向上してきた実感があります。さらに、魚のさばき方や漁師の魚の煮付け方などを学べる「浜のかあさん地元料理体験」も実施し、伝統をつなぐ取り組みも行っています。当社で商品開発した「根昆布だし」のモンドセレクション受賞は自信につながりました。今後もチャレンジを続け、食で町を盛り上げていきたいです。

A級グルメの司令塔

道の駅 しかべ間歇泉公園

〒041-1402 北海道茅部郡鹿部町字鹿部18番地1
電話：01372-7-5655

公式HP
随時更新



町民も利用しています！

食文化を発信する観光施設

道の駅しかべ間歇泉公園は鹿部の食を発信する施設として、ショップや食堂を併設しています。開業以来、毎年多くの観光客が訪れ、鹿部独自の食文化に触れています。お土産品のほかに新鮮な魚介や野菜、惣菜などが販売されており、地元の町民も日常的に利用しています。鹿部A級グルメの魅力を発信する施設として日夜、鹿部町の食を追求しています。

食堂

地元を味わう食堂



鮮魚店

魚介の販売も豊富



惣菜店

手作りの味



お土産

名産品勢揃い



温泉蒸し釜

道の駅で買った食材を
温泉の熱で調理できます。



農カフェぽっぽ

近郊で採れた農作物や飲食物をお手頃価格で販売します。



鹿部の食をもっと知ろう

体験観光プログラム

このほかにも多数プログラムをご用意しています。詳しくは鹿部温泉観光協会へ！

美味しさの
秘密に
なっとく！

親子でも
楽しめる
参加型観光



ほたて漁業体験

鹿部のホタテ養殖は垂下式という稚貝を海中に吊るして育成する方法で行われています。結び付ける作業を体験します。



浜のかあさん
地元料理体験

鹿部ならではの家庭料理づくりを体験します。鹿部漁業協同組合女性部のお母さん（浜のかあさん）たちとの交流を楽しめます。



棒鱈たたき体験

鹿部の海風で天日干した「棒鱈」を金づちで叩きます。その場でマヨネーズや一味などをつけてお召し上がりいただけます。



漁港案内

スケウダラ、ホタテ、エビ、タコなど様々な魚介が水揚げされる鹿部漁港をガイドの解説付きで見学します。



昆布漁業体験

水揚げされた昆布を天日干しをするため、砂利が敷き詰められた干場に敷く作業を体験します。昆布のお土産付きです。



《町の暮らし》健康で活力ある未来へ

町民が生きがいをもって毎日過ごすために、地域での暮らしをサポートする各種行政サービスがあります。2021年に新庁舎に移転し、従来からのインフラ整備や災害対策などのハード面の強化、心と身体に寄り添ったホスピタリティの充実などを引き続き推進しています。あらゆる世代の声に耳を傾け、多くの人にとってかけがえのない「ふるさと」であるために町民との共存・共栄をモットーに町政を執り行っています。



頼もしいまちづくり

自然と共生すること

行政の拠点・災害対策

P13-16



ココロある町政

真摯にみつめること

子育て・福祉

P17-20

子どもからお年寄りまで、あらゆる人が健康で文化的な生活をおくるために努めること。それが行政にかかわるものの使命といえます。適確な行政サービスを求めている窓口には、日々さまざまな相談が寄せられており、各部署が随時連携しながら対応しています。



春夏秋冬、季節ごとにイベントがあります



鹿部うまいもの祭り

5月の気温(平均) 最高 15°C/最低 7°C
毎年5月に鹿部公園で開催されます。鹿部で獲れた旬の海産物、鹿部たらこなどの特産品の販売をはじめ、グルメブースの設置や子ども向けアトラクションなど、楽しい企画が盛りだくさんです。



鹿部稲荷神社例大祭

7月の気温(平均) 最高 24°C/最低 17°C
毎年7月7日～9日に開催され、安政時代の伝承に基づく歴史的な郷土芸能である大名行列「大岩炊子振り」が披露されます。



しかべ海と温泉のまつり

8月の気温(平均) 最高 26°C/最低 18°C
毎年8月第3土曜日に開催される鹿部町最大のイベントです。内容盛りだくさんのプログラムで町内外からたくさんの人々で賑わい、約3,400発打ち上がる花火大会で賑わいは最高潮を迎えます。



本別稲荷神社例大祭

9月の気温(平均) 最高 23°C/最低 13°C
毎年9月19日～21日に開催されます。神事のひとと、奉納こども相撲も大いに盛り上がりを見せます。



鹿部たらこ祭り

2月の気温(平均) 最高 1°C/最低 -7°C
毎年2月に開催される、特産品の「たらこ」をPRするイベント。たらこの魅力に触れながら、鹿部の温泉やグルメも満喫できます。「鹿部たらこ大使」を決める「たらこクイズ」世界選手権、も開催されます。



気候の特徴

1年を通じ温暖な気候の鹿部町。降水量も北海道の中では比較的少なめです。

鹿部町の豊かな風土

人と笑顔が交じり合う

鹿部町では盛大なお祭りやマーケットなど、四季を通して町民や観光客で賑わうイベントが多数あります。それぞれ気軽に参加できる手作りの良さが、世代や職業を超えた触れ合いが地域を盛り上げています。



あたたかい
コミュニティ

自然の恵みのなかで

北海道駒ヶ岳を望む雄大な原野。噴火湾の潮音。鹿部町では自然と親しむ機会が日常的にあり、町民の心身の健康に寄与しています。鹿部公園や遊歩道などレクリエーションのために整備されたスポットが各所にあります。



海・山・川が
すぐそばに

「笑顔あふれ ひかり輝く 未来へつなぐ 新庁舎」

鹿部町政の拠点が生まれ変わりました



CONCEPT コンセプト

逆境に立ち向かう、不屈の精神

デザイン

これまでの町の文化・歴史が積み重なって現在の町が成り立っていることから、立面は降り積もった軽石によって積層された地層を表現します①。また、水平庇は南面の日射遮蔽にもなります。「逆境に立ち向かう、不屈の精神」を象徴し、勇気や資源をくれた軽石をモチーフ②とし、素材の異なる外壁の凹凸が軽快でリズミカルなファサードを持つ、鹿部町らしい外観デザインとなっています。



設備

間歇泉で知られる鹿部町は、道南有数の温泉の町であり、夏(8月)には「しかべ海と温泉(いでゆ)のまつり」が開催されます。鹿部町の温泉は源泉が30力以上あり、その豊富な温泉資源を庁舎の熱エネルギーとして活用し、ランニングコストを低減し、省エネルギーを図っています。

■熱源設備

- ・空調用の主要電源は通常時には温泉熱を主として利用しています
- ・前面道路に敷設されている温泉本管より温泉水を引き込み、温泉水槽に貯留しています
- ・温泉水槽上部の機械室で温泉熱を熱交換した温水を新庁舎内機械室に引き込み、熱を利用しています
- ・温泉熱のバックアップとしてA重油を使用し、温水ボイラーの熱源としています

■空調・換気設備

- ・庁舎の執務エリア、議場エリアは熱交換器組込の空調機(外気調和機)により、冬期も油焚温水ボイラーの温水を利用し室温と同程度の温度で吹出し空調しています(ベース暖房)
- ・省エネを考慮し温泉熱を優先して利用しています

■融雪設備

- ・庁舎のエントランスと広場空間は温泉熱を活用したロードヒーティングを整備しています。

歴史・風土・資源を活かした庁舎

普遍性

あらゆる人々に利用される施設であり、使いやすく、親しみやすい場であることが求められることから、ユニバーサルデザインを導入し、来庁者が短時間で適切なサービスを受けられる、便利で利用しやすい庁舎を目指します。

機能性

多機能で効率的な機能配置、ゾーニング計画を行い、将来の機構改革などにも対応できるフレキシブルな庁舎を目指します。

省エネ

省資源・省エネルギーなど環境負荷低減対策を行ないながら、ランニングコストにも配慮した庁舎を目指します。

防災

地震や噴火、津波や風害などの自然災害発生時において、行政機能を維持するだけでなく、災害対策本部としての機能を発揮できる庁舎を目指します。



行政の拠点



町民の思いが
詰まった
新しい庁舎です



お話を聞かせてください！

あらゆる災害に備え、 防災拠点となる庁舎です

鹿部町総務・防災課 総務係長 松本 大吾 さん

新庁舎の建設は、職員では私と建設水道課係長の2人が中心となって計画を進めました。普遍性、機能性、省エネ、防災を4つの柱とし、特に防災、省エネに配慮した庁舎になっています。防災面では直下型地震を除き、津波や北海道駒ヶ岳の噴火など、鹿部町で考え得る災害をすべてクリアした防災拠点の役割を担います。庁舎の地下には非常用発電機用油タンク(6,000ℓ)を用意し、災害で町が停電となった時でも自庁舎で3日間は発電をまかなえます。また、省エネ面では温泉熱で温めた水を循環させてパネルヒーターや空調に使うなど、暖房の燃料費はほぼゼロ。また、旧庁舎と比較して職員の執務空間を広くし、業務効率化を図ったことによって町民の皆さんへのサービス向上にもつながっていると思います。

FLOOR フロア案内

3F 議場

●展望ラウンジ ●議会事務局 ●会議室

2F 窓口

総務・防災課【防災・デジタル推進室】／企画振興課
水産経済課【食と観光推進室・漁業振興室】／子ども教育課【教育委員会】

●大会議室 ●町長室 ●副町長室 ●教育長室

1F 窓口

民生課／保健福祉課／建設水道課／税務課／会計課

●多目的スペース ●会議室 ●相談室

鹿部町役場庁舎は防災・省エネ・ユニバーサル機能をさらに充実させた行政の拠点として2021年5月に新設移転しました。「道の駅しかべ間歌泉公園」に接し、高台に位置していることから、北海道駒ヶ岳と海への眺望がよい場所です。道の駅とは、高台への避難用スロープにより、往来が可能となっています。また国道278号鹿部バイパスからアクセス可能な敷地です。敷地の南側には、高台避難の目印となる東屋と花壇があります。



1F窓口



大会議室



多目的スペース



展望ラウンジ

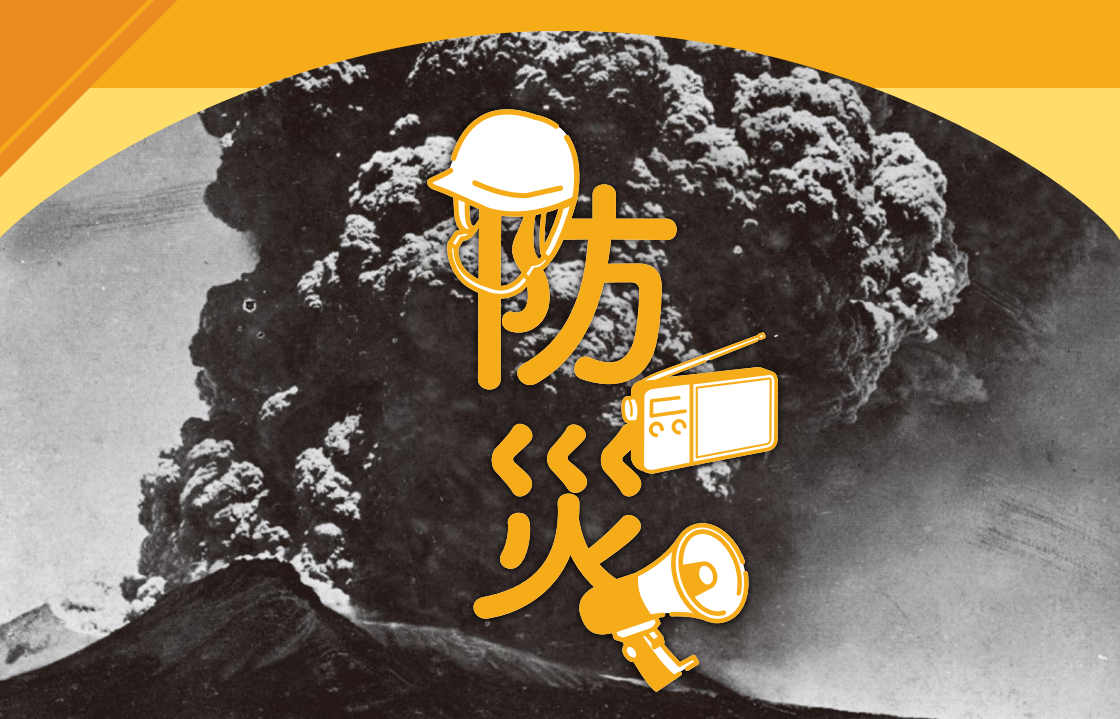


非常用発電機



議場





経験から学び、培った 自然災害に対する心得

鹿部町の歴史を語るとき、数々の災害からの復興という事実は重要です。特に昭和4年の北海道駒ヶ岳大噴火の記憶は、今なお鮮明に語り継がれています。また、平成23年の東日本大震災における東北地方の大規模な津波被害も、当町での津波対策をあらためて強化する機会となりました。人の暮らしに豊かさをもたらす自然はときに猛威をふるい、住民の生活を脅かします。鹿部町は過去の教訓を防災対策に反映させ、自然を理解し、共生していくための施策を更新し続けています。

“備え”あれば“憂い”なし

町民を自然の脅威から守るためのインフラ整備と日頃の防災対策



砂防ダム

火山灰は水の浸透性が悪く、噴石なども混じって土石流となって流れてきます。その流れを止め、下流域への土砂流出を防止するための対策として、砂防ダムが整備されています。



自主防災組織

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織です。平常時には、地域住民へ防災知識の普及を行ったり、防災訓練等を行い、災害時のために備え、災害発生時には、災害情報の収集や伝達、被災住民の救出や救護などの役割を担います。



防災行政無線

屋外拡声機や戸別受信機を介して、町民の皆さんに災害時の緊急情報を伝達するための防災行政無線が整備されています。



防災教育

北海道駒ヶ岳を知ってもらうために、小学5年生には事前学習として登山を、6年生には出来測驗で噴火の地層について勉強してもらうなど、子どもたちに対しては防災の知識を高めてもらうための取組を行っています。



写真：昭和4年 北海道駒ヶ岳噴火の資料

北海道駒ヶ岳の最近の噴火状況

平成 8年 3月 5日 小噴火(水蒸気爆発)
平成 10年 10月 25日 小噴火(水蒸気爆発)
平成 12年 9月 4日 小噴火(水蒸気爆発)
平成 12年 9月 28日 小噴火(水蒸気爆発)
平成 12年 10月 28日 小噴火(水蒸気爆発)降灰がある
平成 12年 11月 8日 小噴火(水蒸気爆発)微量の降灰がある

WATCH! 活火山・北海道駒ヶ岳

町では火山観測体制を整え、危険区域や注意すべき火山被害を想定しています。

北海道駒ヶ岳噴火対策

各種防災対策を行う「北海道駒ヶ岳火山防災協議会」

災害対策の大きな柱となるのが北海道駒ヶ岳の噴火対策です。北海道駒ヶ岳には全国の活火山の中でもトップクラスの台数の観測機器が設置されています。昭和55年には北海道駒ヶ岳周辺1市3町(函館市・森町・七飯町・鹿部町)で「駒ヶ岳火山防災協議会」を設置し、全国に先駆けて「防災計画図(ハザードマップ)」2種(危険地帯及び交通規制、避難場所及び避難道路図)を作成し、さらに北海道駒ヶ岳火山防災ハンドブックを全世帯に配付するなど啓蒙活動を行ってきました。平成28年、新たに北海道・森町・七飯町・鹿部町により設置された「北海道駒ヶ岳火山防災協議会」へ事業が引き継がれ、噴火対策を行っています。

火山災害とは

北海道駒ヶ岳の火山災害の要因となる主な火山現象には、以下のような現象があります。特に、高温・高速の火砕流・火災サージは、最も恐ろしい火山災害です。また、小規模の噴火でも、火山灰が堆積しているところに雨が降ると、土石流などの二次災害も発生します。火山現象は、現象ごとに温度や速度、到達距離に違いがあります。居る場所によって避難すべき現象が異なりますので注意が必要です。

● 火砕流・火災サージ

数百度の軽石や火山灰が周囲の空気を取り込みながら、時速100kmを超えて斜面を流下する現象です。発生したときに、火砕流の到達範囲にいと逃げることは困難です。

● 大きな噴石

噴石は、噴火の勢いで火口をふさいでいた岩石を周囲に放出する現象です。北海道駒ヶ岳では、小規模の噴火でも火口から4km以内に大きな噴石が飛散します。

● 火山灰・小さな噴石(軽石)

砕けたマグマや岩石が火山ガスとともに噴煙となって上昇し、風下側では火山灰・小さな噴石(軽石)となって降り注ぎます。昭和4年の大噴火では、鹿部町で1mの軽石が積もりました。また、火山灰は、降っている最中は、ほとんど視界がなくなり、道路に積もった灰で車の走行も困難になります。

● 土石流・火山泥流

地表に堆積した火山灰は、雨が降ると泥流が発生し、周囲の土を巻き込んで破壊力の大きな流れになります。また、積雪期に噴火が起きると、雪が解けて火山灰と一緒に流れる融雪型火山泥流が発生することがあります。火山泥流は、小規模の噴火でも起こる現象で、時速60kmに達することもあります。

日頃の備えを!



内浦湾津波対策

津波の被害を最小限に抑えるため 避難経路・避難場所を指定しています

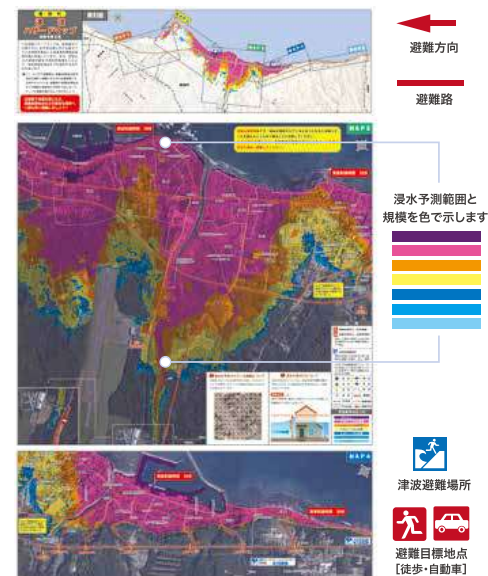
海拔シートを設置

津波が起きた時に備え、標高を示す海拔シートを町内各地に設置しています。また、裏山が崖となっている地区の緊急避難対策として津波避難階段を設置しています。



津波ハザードマップ

津波災害は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な津波」を想定した対策がとられるようになりました。このことを受け、北海道から令和3年に鹿部町に到達する最大クラスの津波を想定した津波浸水予測図の提供がありました。町では地震・津波発生直後から津波が終息するまでの間、住民の生命、身体、安全を確保することを目的に「鹿部町津波避難計画」を策定しており、当該避難計画に基づき、津波による浸水範囲や避難路、避難場所など、津波発生時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために、必要な情報を掲載した「鹿部町津波ハザードマップ」を作成し、全町民に配布しています。また、定期的に津波避難訓練も実施しています。



津波ハザードマップは北海道から公表された、太平洋沿岸における最大クラスの津波を想定した津波浸水想定区域図を基に、令和4年3月に改訂されました。



健康なこころとからだを育むために

町では妊娠・出産・子育てに関する様々な相談に応じ、安心して妊娠から子育て期までを過ごせるよう、切れ目のない支援を目指します。また、相談に対して保健師や管理栄養士等が対応し、来所相談のほか、電話相談や家庭訪問を行い、相談内容に応じて適切な機関と連携し、必要な情報やサービス提供、関係機関の紹介などを行います。お気軽にご相談ください。

子育て

妊娠～産後まで

妊娠中～産後のサポート

■各種費用の助成 ■訪問相談 ■産後ケアサービス

妊娠婦健診の交通費、妊娠期・出産後の検査などの一部費用を助成します。また風しんワクチン接種のサポート、産後ケアや産前・産後のサポートも対応しています。誕生後は新生児聴覚検査費用や生後1ヶ月健診料の助成、お祝いの贈呈など、町の未来を担うお子様とその家族に手厚いサポートを用意しています。



「赤ちゃん おめでとう！」
しかべびーボックス

鹿部町に生まれてきてくれたお子さん(しかべびー)の誕生を祝福し、子育てに役立つベビー用品や記念品をボックスに入れてプレゼント!

乳児～幼少期

各課が協力して行う育児プログラムがあります



役場保健福祉課と子ども教育課が連携して育児のサポートをしています。様々な養育環境に合わせた事業を各種実施していますので、お気軽にご参加またはご連絡ください。子どもたちが人間関係を築いていく最初のステップとして、また保護者同士の交流・情報交換の場づくりに努めています。

就学期

町の風土と文化に親しみながら成長する子どもたちを見守っています

■鹿部町合同学校運営協議会

学校、保護者、地域住民が集い、「どんな“しかべ”を育てたいか”を考え、情報を共有しています。地域とともにある「コミュニティスクール」の推進を目指し、意見を出し合いながら話し合いを行っています。

■鹿部キッズクラブ

保護者の就労等により、ご家庭で十分に面会をみることができない家庭の小学生を対象とし、放課後から保護者が帰宅するまでの時間を子どもが安心して過ごすことができるよう、サポーターが子どもたちを見守ります。

■しかべっ子教室

様々な体験活動やレクリエーションを通して楽しみながら学ぶ講座です。子どもたちは鹿部の自然にふれたり、地域の人とふれあったりしながら町の魅力を体感し、社会に出たときに必要となる力の基礎を身に付けます。



しかべっ子は町の財産です!

座談会 鹿部町での子育て



お話を聞かせてください!

鹿部町では子育て世帯が安心して子育てができ、子どもたちが伸び伸び成長できる環境づくりに力を入れています。子育て支援事業のひとつ『預かり保育・ひまわり』を利用する保護者と現場の担任が、鹿部町での子育てについて語り合いました。



清水 健太郎さん
《預かり保育・ひまわり担任》



松本 真由美さん
《3児の母》



福地 美和子さん
《2児の母》



古城 裕子さん
《2児の母》

『預かり保育・ひまわり』は働くママの強い味方

松本さん「今、次女が『預かり保育・ひまわり』を利用しているのですが、その時間は安心して仕事に集中できるので、効率も上がります。」

古城さん「うちは長女が『ひまわり』を利用しています。小さい頃は年上の子がいたおかげで人見知りが改善され、今はひまわりに行くのを本当に楽しみにしています。」

福地さん「私も松本さんと同じく、預けることによって安心できるのが一番のポイント。また普段だけでなく、夏休みや冬休みなどの長期休暇の期間も預けることができるので、仕事の見通しが立てられて助かっています。」

古城さん「年上の子が下の子の面倒を見るなど、そういう経験をする中で、子どもたちの成長にも良い影響を与えてもらっていますよね。」

清水さん「皆さん、好意的な意見・感想をありがとうございます。このような声を聞かせていただき、今後のモチベーションにもつながります。私たちは幼稚園や保護者の方との連携を大切にしています。そこで得られる情報は、お子さんそれぞれの過ごし方にも関わりますから、今後とも協力よろしくお願いします。」

毎日楽しく過ごす子どもたち

清水さん「『ひまわり』では横のつながりと縦のつながりの両方で幅広い交流があります。楽しそうに過ごしている子どもたちを見ると、こちらも元気をもらえます。」

松本さん「子どもはおやつを食べるのが楽しいと喜んでます。仕事が早めに終わって早く迎えに行った時は、子どもに『何でも早く来たの。もっと遊んでいたかった』と言われ、その声を聞くと本当に楽しいんだなって実感します。」

古城さん「先ほども少し触れましたが、年少・年中・年長と年代の異なる子と遊べるのが利点だと思っています。」

また、事前に提出している迎えの時間よりも大幅にずれた時など、鹿機応変に対応してくれるところも助かります。」

福地さん「うちの子は年少から3年間利用していますが、行きたくないと言ったことはありません。長期休暇の時、お弁当が作れなかった日の宅配弁当も助かりますよね。」

松本さん「あのお弁当メニューを見ていると、私たちも食べたくなります。」

古城さん・福地さん「そうそう(笑)」

子どもたちが過ごせる施設が充実

福地さん「中央公民館をはじめ、鹿部町には様々な文化・スポーツ施設が揃っていますけど、子どもたちと一緒に利用している施設はありますか?」

松本さん「夏はプールによく行きます。無料で利用できるのが嬉しい、子どもたちも喜んでます。」

福地さん「プールはうちもよく利用させてもらっています。あとは、下の子がチアダンスを習っており、練習で週一回くらい中央公民館を使っています。」

古城さん「うちは鹿部公園かな。私が連れて行く暇がないので、一緒に住んでいるおじいちゃんに嫌々連れて行ってくれています(笑)」

松本さん「子どもたちを連れて行ける施設は充実していますよね。」



心と健康を育む文化・スポーツ施設は世代を超えて利用されています



総合体育館

敷地の景観は、鹿部の自然と未来を表現しています。館内にはアリーナや柔道場、そしてランニングデッキにトレーニング室、ストレッチルームを備えています。



山村広場 多目的グラウンド

野球場、サッカー場、パークゴルフ場のほか、コミュニティセンターなどが整備されており、さまざまなスポーツが行われています。



中央公民館

鹿部町の生涯学習・芸術・地域文化活動の拠点となっている施設です。地域の活性化をめざした、社会参加活動の推進に努めています。図書室も併設しています。



コミュニティー・プール

温泉利用の熱交換式による温水プール。一般用6コースと幼児用・児童用のプールを設置しています。また、プール内には天然温泉を引いた浴室もあり水着で入れるようになっています。

子育ての相談はこちら

一人で悩まずに
ご相談ください

鹿部町子育て世代包括支援センター

鹿部町役場保健福祉課内 TEL.01372-7-5291

鹿部町役場子ども教育課

TEL.01372-7-7211



介護予防

介護予防サービスの
ケアプラン作成や効果の
評価などを行います

問題解決

高齢者に関するさまざまな
相談を受け、必要な
サービスへつなぎます

地域包括支援センター

社会福祉士
主任ケアマネジャー
保健師

権利擁護

金銭のトラブルや
虐待などから
高齢者の方を守ります

後方支援

必要なサービスが提供される
ためにケアマネジャーの
指導などを行います

福祉の相談はこちら

鹿部町地域包括支援センター

鹿部町役場保健福祉課 地域包括支援係 (TEL:01372-7-5291)

鹿部町地域包括支援センターには社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師が配置されており、介護だけでなく医療、福祉、健康などの様々な相談の受付や情報提供を行い、地域に暮らす人々を様々な側面からサポートすることを主な役割としています。



この町ですこやかに

高齢者が過ごしやすい環境整備と健康づくりの推進。また障がい者の就労支援や社会活動への積極的な参加をうながす施策など、だれもが笑顔でいられる、心ある町づくりを目指しています。

町が行っている福祉プログラム

生活支援体制
整備事業

地域みんなでサポート！

日常生活において支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域全体で高齢者を支える事業です。生活支援コーディネーターが中心となり、住民ボランティアの力を借りて、簡単な大工仕事や草取りなどの生活支援を行っています。



救急カード

もしもの時の備えが大切

緊急時に必要な病歴や服薬などの情報をカードに記入して保管します。救急搬送時、救急隊からの質問に正確に答えることができなくても、この救急カードがあることで、搬送される方の状況を把握することができ、スムーズな対応を図ることができます。

まる元らくく
運動教室

体を動かして介護予防

65歳以上の方を対象に概ね週1回実施している運動教室です。いつでも健康でいられるよう、介護予防の一環として、健康運動指導士が頭と体を使った体操や足腰の筋力を鍛えるトレーニングなどを指導し、日常生活に必要な筋力の維持や強化を行っています。



あったかサロン

笑顔が一番の健康法です！

高齢者の方ならどなたでも参加できる「つどいの場」です。和気あいあいとした雰囲気の中、楽しいゲームや、体操、お茶会などを行います。仲間と楽しい時間を過ごしながら、健康維持のための情報交換の場にもなっています。

町内にある主な福祉施設



渡島リハビリテーションセンター

多彩な施設を備えた渡島リハビリテーションセンターは、昭和51年(1976年)に社会福祉法人渡島福祉会の施設として設立されました。身体障害者療養施設、身体障害者更正施設、特別養護老人ホーム、老人デイサービス、居宅介護支援、診療所があり、体育館やADL(日常生活動作訓練)施設なども備えた道南でも有数の福祉施設です。そして平成12年(2000年)にはデイサービスセンターの運営委託も受け、総合福祉センターとして町の福祉に貢献しています。



鹿部町老人デイサービスセンター

渡島リハビリテーションセンター内にある鹿部町老人デイサービスセンターは、ご自宅で生活しながら、通いで入浴、お食事、訓練やレクリエーションなど、各種サービスが受けられる施設です。利用者とその家族の方の精神的・体力的な負担を軽減するだけでなく、開放的な空間の中でさまざまな人とふれあい、楽しい時間を過ごすことができます。



農かふえpoppo(ぽっぽ)

ちよっとした
集まりに
鹿部町
コミュニティカフェ



鹿部町地域福祉計画に定める「安心して暮らせるまち」の実現のため、みなさまの交流の場として「鹿部町コミュニティカフェ」を開設しています。だれでも自由に利用することができますので、みなさんのご利用をお待ちしています。

場所／①鹿部郵便局:月曜日～金曜日(9時～17時) ②宮沢児童館:月曜日～金曜日(10時～16時30分)

いつまでも健康で
自分らしくあるために。

心身の健康を保つために、積極的に自然に触れたり、スポーツやウォーキングなどで体を動かすことはとても大切です。町内には雄大な自然を満喫できるスポットが数多く整備されています。いずれも四季折々の魅力がありますので、ぜひ訪れてみてください。



自然の中で楽しめるスポットがたくさんあります。

■パークゴルフ場



仲間と汗を流そう！

■鹿部公園



川沿いをお散歩♪

■ひょうたん沼公園



ダイナミックな眺め！



お話を聴かせてください！

障がい者の方が町に暮らし、
活躍する場を創出する

鹿部町保健福祉課 課長 佐藤 直美 さん

鹿部町の障がい者福祉では、障がい者支援に関する基本の事業に加え、地域生活支援事業を行っています。地域生活支援事業を進めているのが、平成19年から運営を開始した「鹿部町地域活動支援センター・ぽっぽ」です。そのスタートは、障がいを持つお子さんの親御さんから、「鹿部町の中にも、障がいを持つ人でも参加できる場をつくってほしい」という声がかきかけでした。「ぽっぽ」では、障がい者の方がお家で生活をしているだけでなく、社会参加をし、活動を通していろいろな人と関わりを持てるよう事業を展開しています。最終的には、障がい者の方々が暮らせる場、働く場を創出することを目標として活動を続けています。そして、「ぽっぽ」の利用促進事業の新たなステップとして令和3年5月にオープンさせたのが「農かふえpoppo(ぽっぽ)」でした。事業を効果的に進めていくために、私たちと「ぽっぽ」運営の委託先が常に連携し、協議を重ねています。農かふえpoppoでは、野菜やベーグル、魚介などを利用したスープ、スムージーなどを提供しています。利用者さんたちはお客様から注文を受けたものをトレイに移し、袋に入れてお渡しするなど、販売業務を担当。また、コーヒーを入れたり、洗いや調理補助など、それぞれの障がいの特性に合わせた業務も行っています。やる気に溢れ、人と接することを楽しみながら働くその姿からは、とても生き生きとしている印象を受けます。この農かふえpoppoは、障がい者の方がこの鹿部町で就労し、生活する場を創出するための第一段階です。うまく軌道に乗せていき、安定した段階で新たな拠点を作るなど、次のステップへと進んでいきたいと考えています。



しかバス運行中!!



令和3年に再編された路線バス鹿部駅線は町内各所に停留所があり、運行ルートもさらに充実しました。通勤・通学のほか、運転免許や自家用車を持たない方の日頃の移動手段として活躍しています。

■鹿部駅線・222系統《料金一律:大人/100円・小児/50円》
夜場経由で鹿部町内を巡回します。町内の移動はこちらが便利です。

■99・99A系統
南茅部を経由して函館駅前まで運行します。

■鹿部海岸線223・225系統
海岸線を通じて川汲・南茅部方面まで運行します。

■大沼公園・鹿部線210系統
大沼・新函館北斗駅を経由して函館駅まで運行します。

お問い合わせ／鹿部町役場企画振興課 (TEL:01372-7-5297)



広域連携も図り、魅力的で 活力あるまちづくりを。

住民は、町政に対していろいろな要望を持っています。町議会は、これら住民の要望を町政に反映させるため、予算や条例などの議案等について細かく審議し、どう処理するか決定します。そして町長は、町議会の決定に従って具体的に仕事を進める事になります。このような働きから、町議会は議決機関、町長を執行機関と呼び、どちらも対等でありお互いにけん制しながら均衡を保ちつつ、より良い町政のため努力しています。



議会風景



教育長 児玉 貴



副町長 大村 師正



町長 盛田 昌彦



議長 船橋 敦子



副議長 川村 裕司



町議会議員

鹿部町民憲章

わたしたちは、秀麗駒ヶ岳を仰ぎ、洋々とした太平洋を望む恵まれた自然にはぐまれた鹿部町民です。幾多の試練に耐えぬいた先人の偉業を受けつぎ、豊かで明るいまちづくりをめざしてこの憲章を定めます。



- 1 話し合いのある明るい家庭をつくりましょう
- 1 元気にはたらき楽しい職場にしましょう
- 1 きまりをまもり互いの立場を尊重しましょう
- 1 スポーツに親しみたくましい心とからだをきたえましょう
- 1 自然を愛し郷土の文化を育てましょう

(昭和54年10月1日制定)



鹿部町で暮らしてみませんか？

《移住者大歓迎！鹿部町は、北海道移住促進協議会の会員です。》

鹿部町 空き家バンク

お問い合わせ／鹿部町役場建設水道課 TEL.01372-7-5294

「鹿部町空き家バンク」とは所有者から売買又は賃貸の希望があった空き家や空き地の情報を、利用希望者に町が紹介する制度です。鹿部町への移住を考えている方、空き家の処分にお困りの方はご相談ください。

物件情報
随時更新



■空き家や空き地を利用したい方

鹿部町のホームページで土地や建物の売物件を掲載しています。気になる物件はお問い合わせください。

■空き家や空き地をお持ちの方

物件内容や物件情報の公開、個人情報の取扱等に同意の上、申請書に登録票を添えて提出してください。登録完了後、町公式ホームページに物件情報が公開されます。

鹿部町 ちょっと暮らし事業

お問い合わせ／鹿部町役場企画振興課 TEL.01372-7-5297

体験者募集

北海道への移住に魅力を感じている一方、生活面で不安がある方などに、一定期間鹿部町での生活を体験してもらい、地域の魅力発見や地域とのふれあいを通じ、移住後の生活イメージをつかんでいただくための企画です。

応募要件

- ① 鹿部町外に住所がある方
- ② 当町への移住を目的とする活動のために、町内に連続して3日以上宿泊する方
- ③ 終了後のアンケート等にご協力していただける方

体験者には特典があります。

滞在費の助成

応募要件に該当し、町内の宿泊施設にご宿泊いただいた方へ、町から宿泊費の2分の1以内（1泊あたり3,000円を上限、5泊まで）を助成いたします。

公共施設等が町民料金で利用可

ちょっと暮らし滞在中に「鹿部特別町民証」を貸出します。公共施設等利用時に特別町民証を提示すると町民料金で利用できます。

